



## ■ピオトープ・サポート 生物多様性保全 ～学校で、地域で、子供も大人も～

ピオトープ・サポートの活動紹介です。2名の会員が活動の支援に参加しましたが、このような活動の広がりを期待して、活動場所となった【ピオトープ気延の里】を合わせてご紹介します。（編集部）

### 【ピオトープ気延の里で総合的学習】



去る5月13日、ピオトープ気延の里で「自然のふしぎ発見！」というテーマの下、石井小学校の総合的学習が実施されました。自分たちが田植えをした【田んぼ】【神社の鎮守の森】【休耕田の池と原っぱ】の三箇所を巡り、それぞれの場所での自然のふしぎ発見です。

池で生きもの探しに夢中になる、原っぱでチョウやトンボを追いかける、水辺で見かけない浮遊物を木切れでつつく、ここでは、いろんな個性が炸裂です。



ガマの茎についた多数の小さな黒い粒を見て「あれはなに？」…その傍らにはテントウムシが…「よく見てみよう！」…「あっ、アブラムシ！」…「なにをしにきているのだろう？」…「池の水が赤い！」…「なぜ赤い？」…「これ食べられる？」…といった具合です。

この場所は、「自然から遠ざかる現代の子供たちに、身近な自然の中で遊んでもらいたい。」と、一人の住民の思いから8年前に石井町に誕生しました。地元有志が集い【石井町ピオトープを考える会】がスタート、その後、【ピオトープ気延の里】に改名し、メンバー各々の知恵と技を持ち寄り、術を活かして耕作放棄地を田んぼや畑に再生しました。そして、水路やため池も作りました。隣接する鎮守の森や原っぱ、背後には気延山と呼ばれる里山も控えています。



ところが、子供たちがやってこない…そこで、石井小学校へ。校長先生のご理解もあって、ピオトープクラブが誕生し、総合的学習の実体験の場ともなりました。クラブの様々な体験活動、田植え体験や収穫祭など、会員の皆さんのお世話で、子供たちにとっては、地域の大人たちとの交流の場ともなっています。また、会員には、この活動を支える多くの地元事業所が名を連ねています。

現在は高学年の活動が中心ですが、1年生から6年生まで、一貫した活動プログラムが準備されています。そして、隣接する耕作放棄地も取り込んでの拡張計画が進んでいます。

図らずも、こうした取組みが、シニア世代のコミュニティーの場づくりともなって、地域の活性化にもつながるといふ好循環が生まれています。

かつて、総合的学習では【郷土への愛着】とかも目にしたような気がしますが、ここでの様々な実体験や地域の人々とのふれあいは、児童たちが近い将来、地域の未来を考える原動力になることでしょう。

かつては、行政の支援とも相まって、学校ピオトープづくりや地域のピオトープの保全活動がブームとなった時期がありました。しかし、いずれも継続が大きな課題でした。「継続は力なり」…「言うは易く行うは難し」ですね。

さて、継続の秘訣は何でしょうか？…やはり、人でしょうか？…この度の参議院選挙、選挙権が18歳に引き下げられて初の国政選挙です。経済成長の論点が目立ちますが、地球温暖化防止、生物多様性保全、これら地球規模の問題は影をひそめた感も。まちづくは人づくり…持続可能社会に向けた人づくり…賢明な選択ができる人づくり、これにつながる活動に期待し、その一助になりたいものです。





■みんなの“たからもの” スミレやタンポポ、カタバミが庭先や里地を彩ります



—昨年にも寄稿を頂いた M さんから春のお便りです。紙面の都合上、遅くなりましたが2 通まとめの紹介です。先の本紙では特定外来生物“ナルトサワギク”の話題が続きましたが、身近な里地植物もまだ健在のようです。また、最下段の写真は、本紙 086 と088 で紹介したチャボタイゲキのその後ですが、烏骨鶏が攪乱した地への侵入、毒を持つことで食害回避という生き残り戦略は見事です。草刈によって在来種が安定し自然草地化した耕作放棄地には拡大していないようですね。

ちなみに、ムラサキカタバミは帰化植物です。(編集局)

【我が家にも春がやってきました：4月9日Mさん】

我が家の庭も耕作放棄地も春爛漫です。庭の草取りは大変ですが、カタバミやスミレなどの草丈が低い草は邪魔にならないので残していたところ、いつの間にか至る所で花を咲かせるようになりました。最近では白花も交じり、来年の春の競演に期待です。

耕作放棄地ではタンポポが花盛りです。ここでも草刈が大変ですが、いつごろからかタンポポが咲くようになりました。畜産を営む隣家の牛舎の影響で富栄養化となつて、稲作ができなくなってしまい、それ以来、年に数回の草刈をしています。刈り草は、片隅に積み置いて菜園の堆肥として利用しています。(写真：上2枚)

【タンポポの次はカタバミです：4月23日Mさん】

4月10日に耕作放棄地の草刈をしました。その跡には一面にカタバミが芽吹いて小さな花を咲かせました。ところどころにムラサキカタバミがアクセントになってまるで黄と緑と薄紫で織りなす絨毯のようです。

それから、088号で教えていただいたチャボタイゲキですが、投稿後に抜き取って、すっかり無くしていました。でも、2か月後にはごらんのとおり一面に芽吹いて広がってしまいました。果樹の下草抑制を狙った烏骨鶏は、期待どおり見事に除草に貢献してくれたのですが、在来種を食べつくし、外来種を大繁殖させる結果となつてしまいました。どうでしょう!?(写真：下2枚)

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより  
**無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【生態学の択一問題：解答と解説は次号で紹介】

問091：次の文章中の空欄 ( a )、( b ) に入る適切な語句の組み合わせはどれですか。

自然界には、分子レベル、細胞レベル、個体レベルというように様々なまとまりの系がある。ある空間内に生息する同種個体の集まりを ( a ) という。ある空間内に生息する様々な種の ( a ) の集まりを ( b ) という。 1. a.個体群 b.混群 2. a.個体群 b.群衆 3. a.群衆 b.個体群 4. a.混群 b.群衆 5. a.混群 b.個体群

■前号090(施工部門の記述一問題)の解説

先ず、池に生息する外来生物の種名をあげなければなりません。例えばウシガエル、アメリカザリガニ、オオフサモ、ホテイアオイ、などです。これらの**食性や生態**、特性等の知見に基づいて**具体的な対策**を記述すれば良いですが、1 級ビオトープ計画管理士の合格を目指すのであれば、単に駆除・防除のみで終わらず、それに**適した時期**や、対策を用いた**地域への普及啓発方法**、対処後の**モニタリング・管理計画**などまでつなげることが望ましい。

2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください! 編集局  
 【ご意見・お問い合わせは E-mail:[kanv@nifty.com](mailto:kanv@nifty.com) へ】 【バックナンバーは URL:<http://biotopetokushima.yu-yake.com> から】